

「太平山麓九条の会」だより



事務局：須黒法律会計事務所 〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18 FAX0282-22-3757

電話連絡先 0282-22-7079(増田)

Eメール oohirasanroku9jo@yahoo.co.jp

HP：太平山麓九条の会で検索

181号

2022年 7月29日発行

沖縄を平和な島に



琉球王国はまわりの国々と交易する平和な島で、故翁長雄志沖縄県知事は「万国津梁」という言葉で表現します。でも6月23日、沖縄慰霊の日の追悼式で、岸田文雄首相の口から「万国津梁」が出たとき、「この人には使ってもらいたくない」と感じました。

映画「標的の村」など沖縄を撮りつづける三上智恵さんが「沖縄に暮らして27年になります、今ほど『戦争前夜』を感じることはありません。」といっています。

いま石垣島で自衛隊ミサイル基地の大規模な工事が進行中、クレーンが15台並び、ダンプカーが頻繁に出入り、すでに奄美大島、宮古島には自衛隊のミサイル部隊、最南端与那国島には沿岸監視隊が配置され、アメリカは南西諸島が並ぶ弧を「第一列島線」、中国を抑え込む最前線と位置づけており、自衛隊の配備はそれに応えているようです。

三上さんは万が一台湾有事が起きたら、沖縄はウクライナと同じ運命になるといいます。

岸田さんはあえて翁長さんの言葉を使う。自分がしていることと口にする言葉がかけ離れていても何も感じない人、亡くなった安倍晋三元首相とそっくりと思えました。

栃木市の芸術家鈴木賢二の作品展示場「如輪房」で、賢二さんの版画を使った衣料の展示を見ました。60年ごろの沖縄をテーマにした「この子をかえせ」を背に刷り込んだ薄手の上着を



掲げた瞬間、「あつ、賢二さんが沖縄を平和な島にしてかえせ！」と叫んでいると感じました。

賢二さんが創造した版画はいまも私たちに訴えつづけている。

平和な島を取り戻すのに保守も革新もない。「オール沖縄」の伊波洋一が参議院選で競り勝ちました。茂木敏允自民党幹事長が四回も沖縄入りしたのにオール沖縄は負けません。沖縄が平和な島になるまで、賢二さんの版画といっしょに訴えつづけます。(G・T記)



「こわいをして、へいわがわかった」
びじゅつかんへお出かけ
おじいちゃんや
おばあちゃんも
いっしょに
みんなでお出かけ
うれしいな
こわくてかなしい絵だった
たくさんの人がしんでいた
小さな赤ちゃんや、おかあさん
風ぐるまや
チョウチョの絵もあったけど
とてもかなしい絵だった
おかあさんが、
七十七年前のおきなわの絵だと言った

ほんとうにあったことなのだから
たくさんの方がしんでいて
ガイコツもあった
わたしとおなじ年の子どもが
かなしそうに見ている
こわいよ
かなしいよ
かわいそうだよ
せんそうのはんたいはなに？
へいわ？
へいわってなに？
きゅうにこわくなって
おかあさんにくついた
あたたかくてほっとした
これがへいわなのかな

おねえちゃんとけんかした
おかあさんは、二人の話を聞いてくれた
そして仲なおり
これがへいわなのかな
せんそうがこわいから
へいわをつかみたい
ずっとポケットにいれてもっておく
ぜったいおとさないように
なくさないように
わすれないように
こわいをして、へいわがわかった

沖縄県沖縄市立山内小学校2年、徳元穂菜さん(7)の詩の全文

本の紹介＝孫崎亨著 『平和を創る道の探求 ウクライナ危機の「糾弾」「制裁」を超えて』

孫崎 亨氏の最新刊が出ました。大変興味深く読みました。

孫崎さんは、ロシアがウクライナに侵攻する前から、この問題は簡単に解決できる。西側が「ウクライナの NATO 拡大問題は、緊迫する中、今進めるのは適切ではない。しばらく凍結」と言えばそれで終結。なぜそれをしないか。紛争が続く今でも和解は可能だと声を上げています。様々な資料や情報をもとに書かれていて、毎日のニュースだけを見ていると解らない、ウクライナ紛争の本質が良く理解できました。

更に、この危機を利用して、憲法を改正し軍備増強しなければ！ という風潮にさせられているが、日本が攻撃用ミサイルを持ち、敵基地を攻撃したとしても、多少破壊できても残りのミサイルを打たれ、日本は壊滅的打撃を受ける。日本の安全は軍力では決して確保できないということも具体的な数字をあげて解説されています。

「平和を創る道」の模索の出発点は、この「日本の安全は軍力では確保できない」ということを、理解することだと納得しました。その上で、じゃあ日本はどうすればいいか…ということを考えなければなりません。参議院選挙で、改憲勢力が大きく議席を伸ばしたのも、軍力を高めて対抗すれば日本が守れると思っている人が多いということなのでしょう。

政治の最大の目的は何か？ それは人々の命を守り、人々が日々の日常生活をつつがなく送れるようにすることではないかと。戦争で死者を出さない道をどう選択していくかが大事だと思います。

プーチンは“軍力”でウクライナの”屈服“を求めた。西側が経済制裁等で行おうとしていることはプーチンの”屈服“を求めてのこと。その結末は、各々の行動がどれだけ公正さを持っているかで決まるのではなく、屈服させようとする側がどれだけ力を持っているかにかかっている。私たちに求められるのは何か。”屈服させる“行動ではない。”合意に達する“行動である。”合意に達する“には相手の主張を理解し、妥協点を考えなければならない。

紛争を、軍事ではなく、平和的手段で解決するという事は、そういうこと。「9条に基づく平和外交を」とよく使いますが、北朝鮮、中国、韓国などとの関係をどう築いていくか、この孫崎さんの提案こそ、それを追求していく道だと思いました。紙面の都合で詳しくは書けません。みなさんも、ぜひお読みください！

(N・S 記)



お知らせ

★「夏想う ピースピース」 8月28日(日)13時30分から

キョクトウ 蔵の街楽習館 大交流室 (詳細はチラシをご覧ください)

★スタンディング

8月9日(火) 市役所前 8月19日(金) ケイズデンキ前 両日とも16時から30分間

★スタッフ会議

8月11日(祝) 8月25日(木) 9月9日(金) 9月22日(木) 10月6日(木) 13時30分～

場所 キョクトウとちぎ楽習館2階市民活動室

♣ 「国葬反対」スタンディング 8月17日(水)16時から イオンカワチ前
主催 とちぎ市民ネットワーク (チラシをご覧ください)

